

KumaDAS (クマダス) のススメ

野生動物研究領域 野生動物管理担当チーム長 岡 輝樹

背景と目的

2006 (平成 18) 年は、史上最悪の規模でツキノワグマが人里域に出没し、大きな社会問題となりました。人身被害件数は全国で 140 件に達し、有害獣として駆除されたツキノワグマの数は 5,000 頭を超えました。

いま、「山の実」とくにブナやドングリなどの「堅果類」が豊作か凶作かによって、ツキノワグマによる人里への出没多発を予測しようという取り組みが各地でおこなわれています。しかし、これまでのデータの蓄積がないため、こうした「山の実」の豊凶が本当にクマ出没と関係があるのか、よくわからない地域も多いようです。

ところで、堅果類の豊凶は広い範囲で同じように変動することが知られています。ということは、もしクマの出没がこの豊凶に関連して起こるものであるなら、出没の変動パターンも近隣の県で似たものとなるはずです。そこで、人里への出没の多少を示す有害駆除数の変動パターンが、どの程度似ているかを調べてみました。

成 果

KumaDAS (クマ出没予測システム)

数年に一度起こる東北地方のクマ出没多発は、主としてブナの凶作で説明できそうだとわれています (平成 15 年度研究成果選集)。2001 年にクマの出没が多発した岩手県は、この研究成果をもとにブナの豊凶調査を始め、2006 年春に初めてのクマ出没注意報を発令しました。市町村、関係各機関は様々な対策を取り、人里での人身被害を少なくすることができました。

現在、各県の担当課が中心となって「山の実」の成り具合についての情報を集め、その結果からクマの人里への出没多発を予測しようとしています。これは天気予報にも似ているので、地域気象観測システム AMeDAS にならって KumaDAS と呼ぶことにしましょう。2006 年の岩手県の例は KumaDAS が被害軽減に有効であることを示したことになります。

堅果類の凶作がクマを出す？

さて、どの地域でもクマの出没は堅果類の豊凶と関係しているのでしょうか。クマによる被害を受けている 23 府県 25 地域における 1993 年～2004 年のツキノワグマ有害駆除数がどのように変動したかを解析したところ、近隣県では確かに同じように変動していることがわ

かりました (図 1)。つまり、ある県がクマの出没多発に悩んでいる年はその隣の県でもクマ騒動が起きているということです。これは、県レベルを超えた広い範囲で堅果類の豊凶が同調していることと関係があるのではないかと推察されます。

広域 KumaDAS も可能

KumaDAS は全国の多くの地域で取り組み可能です。しかし各県だけでの取り組みには限界もあります。出没パターンが似ている近隣県は協力してデータを収集、分析することにより、クマの出没多発をより精度よく、また広域的に予測し、被害回避のための策を事前に検討することができるようになるでしょう。また、森林総合研究所が公表している全国のブナ結実状況データベース (<http://ss.ffpri.affrc.go.jp/labs/tanedas/index.html>) も役立つでしょう。

本研究は環境省公害防止等試験研究費「ツキノワグマの出没メカニズムの解明と出没予測システムの開発」の一環として実施されました。

詳しくは：Oka, T. (2006) Mammal Study 31(2): 79-85 をご覧ください。

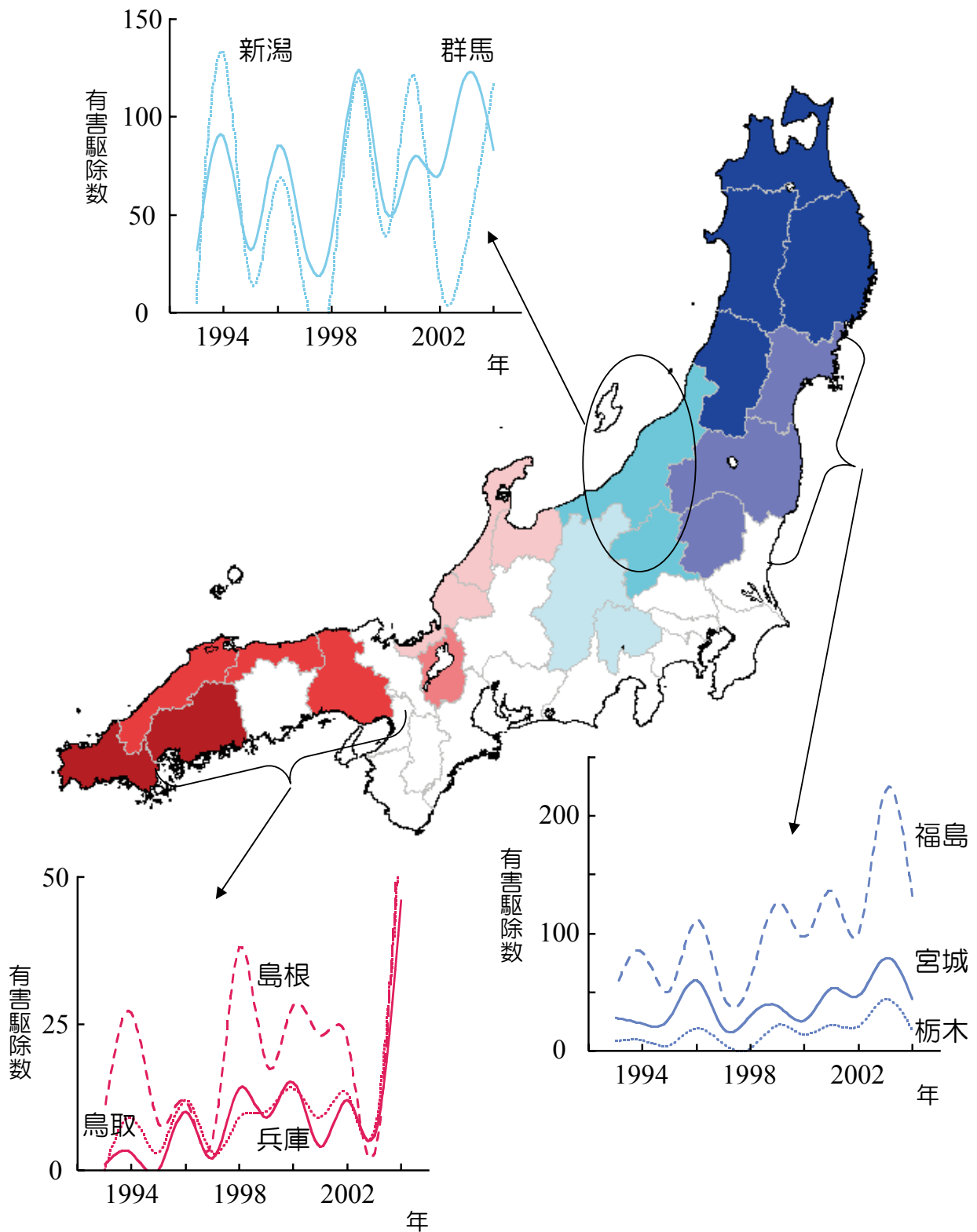


図1 有害駆除数変動パターンが似ている県とその例

有害駆除数変動パターンは富山・長野県を境に東日本地域（青系色で示す）と西日本地域（赤系色で示す）に大きく分けられた。各地域内で変動パターンが類似している県を同じ色で示した。白抜きはどのグループにも属さなかったか、駆除数が少ないもしくは生息していない都府県。四国は個体数が非常に少なく、また九州の個体群は絶滅したといわれている。